

学校名	山ノ内中学校	
ホームページURL	生徒数 538名	
(1) テーマ 身近な山ノ内町の様々な体験（環境・福祉）を通して、豊かな自己表現力のもてる生徒の育成。 - 条例と高齢化を窓口にして - テーマの分類（ ーエ ） 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください 学級・ 同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他（ ） 該当学年 1年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい 生徒会（奉仕委員会）の活動や学級単位による特別養護老人ホーム訪問ボランティアなどの活動を通して「福祉教育の5つのねらい」に沿い始めた生徒たちが、「介護保健制度」や山ノ内町の福祉の現状を知り、「福祉」の現状を（擬）体験することを通して、「福祉教育の5つのねらい」を体現できる生涯学習力をつける。 「福祉教育の5つのねらい」 生命の大切さを知るとともに、お互いの人格を尊重できる。 思いやりや助け合いの気持ちを育てることから、共に生きる喜びを知ることができる。 愛や奉仕の精神に支えられた連帯感をもつことができる。 ボランティア活動等の奉仕による実践活動ができる。 社会福祉の理念と制度について理解できる。 生徒会（奉仕委員会）の活動や学級単位による特別養護老人ホーム訪問ボランティアなどの活動		
(4) 活動の実際（活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等） 学習方法 ... 1学年「手話」学習（1学年の5クラスを3回に分けて実施） 【日時】 【場所】 10月30日（月） 1：50～3：40 1組、2組それぞれの教室 11月 6日（月） 1：50～3：40 3組、4組それぞれの教室 11月20日（月） 1：50～3：40 5組の教室 学習内容...・講師の先生のお話（障害者の現状も含め） ・ ・テキストを使った学習 ・手話で歌を歌う 講師...「中野手話サークル」よりクラスごとに1名派遣 その他...三学期も2回目（聾者の方との交流を中心に）を実施予定。 時数（ 2 ）		
(5) 指導体制（校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等） 1学年...「手話学習」（上記） 2学年...「点字学習」（中野点字友の会） 3学年...「疑似体験」（車椅子、マスク疑似体験）町福祉センターより車椅子をお借りして学校周辺、校内を中心に疑似体験 ・1、2年については教室での講師による学習が中心。3年生については安全面を配慮して、事前に福祉センターの方に来て頂き、職員研修を実施。当日は危険個所に職員を配置した体勢を取った。		
(6) 指導上の留意点（時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等） 「総合」の本年度年間時数は50時間で設定。 前期「環境学習」、後期「福祉学習」にした。 「福祉学習」は9月の「介護保健制度」について町の福祉課の方を講師に招き、全校体制で町の現状と課題、子ども達に望むことについて講演していただいた。 講演の1週間前に職員への事前研修会を取り、福祉課の方に講義していただいた。 本校の「総合」について、4月のPTA総会、7月の学年PTAでその概要を係りが説明し理解を得た。		

(7) 評価（基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際）

「手話」学習については、担任・係りが授業の様子を写真に取り、授業について反省、感想を書かせ、そこから個々の課題や三学期への方向を導こうとしている。

(8) 成果と課題

小学校から「総合」で手話を学習したり、福祉施設を訪問したりしてきた生徒には、学習の連続性と言う意味で学ぶねらいが明確になっていた。しかし、初めての生徒にとっては導入の段階で動議付けとして「介護保健制度」を持ってきたことはやや唐突な感じを受けさせることになった。

「手話」は技術的なことを学ぶことより、自分と異なる環境に身を置いて考えてみる「他者の目、立場」という観点を重視した。その観点から「手話」を学習しつつある生徒がいることを感想や行動から読み取ることができる。

ボランティアの方が5名以上であると、学年5クラス一斉に学習できたが日程や人数の関係で3段階に分けて実施せざるを得ない状況になったことが課題である。

「総合」で「福祉教育の5つのねらい」に迫ろうと考えているが、この5つのねらいは「総合」の時間のみでなく、道徳・特別活動・各教科全体との関連が重要になってきていることを再認識したこと。今後、横断的な視点での年間計画及び手立てを考えていきたい。最終的には生徒たちが「より住みやすい町づくり」に貢献できる生涯学習としての資質をもつことを願っている。

テーマの分類 横断的・総合的な課題（ ア 国際理解 イ 情報 ウ 環境
エ 福祉・健康 オ その他） 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題